

かい よう
海陽



6 73
月号
公民館報

海陽町教育委員会
2018年6月1日発行



ゴールデンウィーク 文化村祭の様子

人づくり(人権意識の高まり)から町づくりへ

海陽町 岡田 啓

先日春の叙勲に輝いたタレントで映画監督のビートたけしこと北野武さんは、東日本大震災の直後に次のようなコメントを発しました。『この震災を2万人が死んだ一つの事件として考えることができないんだよ。一人が死んだ事件が2万件あったってことなんだよ。本来悲しみっていうのはすごく個人的なものだからね』ハッと気づかされる凄い発想ですね。そして、誰もがこのような考え方ができるようになればと思います。

要なことでしょうが、人を考える場合はやはり一人一人が優先されるべきでしょう。個々の立場がきちんとしていないければ全体としての調和もないのです。新緑の若葉青葉も一つずつ色や形が違います。一つ一つの違いが集まって美しい彩りができあがります。アジサイも一つの小さながく(花びらのようにみえる)が集まって一つの美しい大輪をつくります。人の社会もおなじような考え方ができると思えます。

しかし、私たち人の社会は、常に個々を軽視した人権問題が存在しています。今、ニュース等で報道されるセクハラ、強制不妊、同性愛、慰安婦、ミサイル攻撃問題など・・・。そして、それらを批判し、問題解決を強く望む考えや意見も多く語られています。

問題解決のためには、その仕組みをよく知ることが大切です。アンテナを高くしておくことで多くの人達の様々な声に気づきます。いろんな発見に出会えます。教育委員会で毎年発行される「わたしの思い(小中高生の人権作文集)」からも様々な考えが発信されています。そして、発信を受け止める中で理解が進み、行動もだんだんと変わっていくのです。

『町づくりは人づくりから』とよく言われますが、人権意識が高まった人たちが集まることで豊かな町づくりに繋がります。豊かな発想も多く生まれるでしょう。多くの人たちの様々な気づきを届けてください。そして、多くの町民がそれらに触れることで素敵な町づくりに繋がっていくことを期待しています。

(追伸)
人権に関するコメントを届けてください。



新任の「あいさつ」

子どもは地域で

守り育てる

社会教育指導員 三浦 欣也



3月末に38年間の教員生活を終え、5月より海陽町教育委員会で社会教育指導員としてお世話になっております。振り返れば、在職中は、海陽町内で通算23年間、多くの地域の方々、保護者及び教え子たちにお世話にな

り、充実した毎日を送ることができました。このたび、このような機会をいただき、故郷のために尽力できることを大変うれしく思います。

さて、現在、社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化している中で、子どもたちの「生きる力」をはぐくみ、健やかな成長を促すためには地域の教育力を生かし、学校と地域が一体となった教育活動が不可欠です。

海陽町の未来を担う子どもたちは、「地域の宝」です。地域の子どもは、地域で守り

育てていかなければなりません。そのためには、地域の人々がいろんな場で子どもたちとふれあい関わりながら繋がり、さらに故郷の温かさをしっかりと伝えることによって「海陽町が大好き」と故郷に誇りを持つ子どもを育てることが大切です。

私の担当は、主として生涯スポーツや青少年健全育成に関することです。生涯スポーツを通して、健康で明るい毎日が過ごせるとともに、仲間とともに支えあえる地域づくりに努め、青少年を健全に育成するために、子ども・若者の心に寄り添い支援していかなければと思っております。

私自身子どものころから、地域の方々に温かく守り育てていただいたことを感謝しております。この恩義を少しでも故郷に返せるように、誠心誠意努力し、社会教育指導員

として微力ながら力を尽くしていきたいと思えます。ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。



第13回

文化協会祭

今年のゴールデンウィーク期間中は、行楽日和に恵まれて、皆さん外出されたり、家でゆっくり過ごされたりと、それぞれに楽しまれたことと思います。

海南文化村でも、第13回海陽町文化協会祭(5月3日～5月6日)、併せて文化村まつりも開催され、たくさんの方が参加されました。

展示の部



絵画



押し花・パッチワーク

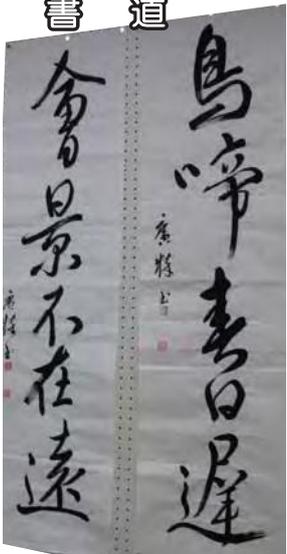


陶芸・写真



俳句

書道



絵手紙

文化村まつり



虹色アコーディオンと
世界のタンバリン



出世いもを
つくってみよう!



藍染め体験



お茶席



スーパーボールすくい



押し花体験



移動図書館 (まつかぜ号)



陶芸体験

絵本の読み聞かせ 「にもの会」表彰



5月3日「とくしま子育て大賞」の表彰式が徳島市のアスティとくしまにて行われました。積極的に子育て支援活動を行っているシニア世代を中心とした子育て支援団体として絵本の読み聞かせ「にもの会」がとくしま子育て大賞（シニア子育て支援部門）を受賞されました。表彰式では、飯泉知事から表彰状と記念品が授与されました。

「にもの会」の主な活動は、毎週木曜の朝行っている小学校の読み聞かせと、月1回の図書館でのおはなし会などです。



—博物館雑記— 古墳

『あっあっあ——』自分の声が共鳴して聞こえる『ここだ!!』。ここは、神戸市垂水区五色山にある五色塚古墳の中心点。形状は前方後円墳。国の史跡に指定され、出土品は国の重要文化財・神戸市指定有形文化財に指定されている。

古墳とは、天皇・貴族・地方の豪族等の身分の高い人が葬られている古代の墳墓。そして古墳には沢山の土器や、埴輪、副葬品などが埋められている。葬られた方が安心して神の国に行けるように数々の仕掛けがあるエジプトのピラミッドの日本版が古墳だそうだ。



五色塚古墳

五色塚古墳は、パワースポットで有名で「訪れる人をパワーアップさせてくれる」特に「子宝に最高の場所」と聞いてやってきた。

60歳の私が、子供が欲しいわけではありませんよ（笑）友人の息子さん夫婦にお勧めし皆で来たのです。結果、見事ご懐妊の運びとなり、今夏、男の子が誕生する事となった。7年も待って授かった。それが偶然か必然かは神のみぞ知るところだが、おめでたい結果となった五色塚古墳の不思議といえる。

「何故ここに来た人が子宝を授かるのか。この古墳の円錐上の中心に地球からのエネルギーが吹き上げていると同時に宇宙からのエネルギーがこの古墳の円錐上を目がけて降りてくる」らしい。よって「古墳の上に立ち、声が共鳴する場所（磁場(風水)の良い所)を探して立つことにより、気の滞りを良くし、つまりをなくすことにより不思議なことが起こる」と…信じる者は救われる。



大里古墳のジオラマ

さて我が町にも古墳ありますよ！大里古墳（2号古墳）。現在修復中ではありますが、皆様ご存じですよ。（昭和27年に徳島県の史跡第1号として指定されている）そして海陽町立博物館の目玉ともいえる大里古墳のジオラマは、古墳が作られた当時の姿がイメージでき、郷土の古墳文化を体験学習できます。是非是非、博物館にお越しいただき古墳文化に触れていただきたいと思います。お待ちしております。

第13回小学生6人制バレーボール海陽大会

4月1日(日)

平成30年4月1日、海陽中学校体育館及び穴喰小学校体育館において開催された「第13回小学生6人制バレーボール海陽大会」において、地元チーム「海南バンビーズ」がAゾーン（海陽中学校体育館）で準優勝、「穴喰杉の子」がBゾーン（穴喰小学校体育館）で優勝しました。



Aゾーンで準優勝した「海南バンビーズ」のみなさん



Bゾーンで優勝した「穴喰杉の子」のみなさん

Aゾーン 会場…海陽中学校

優勝：野市東クラブ
 準優勝：海南バンビーズ
 3位：加茂JVS、小松島JVC

	試合順				
①	加茂	2	-	0	日和佐
②	海南	2	-	1	桑野
③	加茂	2	-	0	北井上
④	海南	2	-	0	牟岐
⑤	北井上	2	-	0	日和佐
⑥	桑野	2	-	0	牟岐
⑦	海南	2	-	0	加茂

①	小松島	2	-	0	鷺敷
②	野市東	2	-	0	大松
③	大野城山	2	-	0	鷺敷
④	野市東	2	-	0	中野島
⑤	小松島	2	-	0	大野城山
⑥	中野島	2	-	0	大松
⑦	野市東	2	-	0	小松島

決勝	野市東	2	-	0	海南
----	-----	---	---	---	----

Bゾーン 会場…穴喰小学校

優勝：穴喰杉の子
 準優勝：新開JVC
 3位：岩脇JVC A、椿キャッツ

	試合順				
①	岩脇 A	2	-	1	新野
②	穴喰	2	-	0	岩脇 B
③	羽ノ浦	2	-	1	新野
④	岩脇 B	2	-	1	喜来
⑤	岩脇 A	2	-	0	羽ノ浦
⑥	穴喰	2	-	0	喜来
⑦	穴喰	2	-	1	岩脇 A

①	新開	2	-	0	橘
②	椿	2	-	0	宝田
③	橘	2	-	0	半田
④	椿	2	-	0	穴吹
⑤	新開	2	-	0	半田
⑥	穴吹	2	-	0	宝田
⑦	新開	2	-	0	椿

決勝	穴喰	2	-	1	新開
----	----	---	---	---	----

宝くじ文化公演

ミュージカル

白雪姫

「グリム童話」より

- 演出/源 紀
- 脚本/北 麦生
- プロデューサー/相羽 源之助
- 制作/深田 倫紀・川島 清和

65万人の子どもたちが感動した舞台



妃 瀬戸内 美八



白雪姫 小野田 侑歌

自然を愛し、平和を願う
美しい心を伝える

制作 劇団東少

- 音楽 神尾 憲一・塩谷 翔
- 振付 山本 教子・相羽 源氏
- 舞台監督 倉本 秀哉
- 美術 園 良昭
- 照明 立川 直也
- 音響 木谷 晶代
- 衣裳 山田 いずみ
- 声楽指導 市川 祐子

平成30年 **8月25日(土)** 14:00 開演 (13:30開場)

阿波海南文化村海南文化館

〒775-0202 海部郡海陽町四方原字杉谷73

- 主催/海陽町・海陽町教育委員会・(一財)自治総合センター
- 後援/四国放送・徳島新聞社

問合せ先 阿波海南文化村海南文化館 ☎0884-73-3100

入場料 ●一 般 1,000円(当日1,500円)
 ●高校生以下 500円(当日 700円)
 [全席自由]

※この公演の入場料は、宝くじの助成により特別料金になっています。
 ※車いす席ご希望の方は、海南文化館へお問合せください。
 ※前売入場券が完売した場合、当日券の販売はありません。
 ※3歳以上有料(3歳未満は大人1名につき1名ひざ上無料。ただし、座席が必要な場合は有料。)
 ※駐車場限りがありますので、お車の場合は、乗り合わせてご来場ください。

前売開始日 平成30年 6月1日(金)

●入場券販売所

- ・海南文化館
- ・穴喰町民センター
- ・海陽愛あいクラブ
- ・リパティ(牟岐町)
- ・牟岐町の総合文化センター
- ・日和佐公民館(美波町)
- ・阿南市文化会館「夢ホール」



穴喰俳句 四月例会より

風光る赤いリボンの子がひとり	山本 球子
空青く土手をゆつくり花の下	陸田 ヨネ子
女々しいは男の形容ひな祭り	新井 久実
静寂裂き走る単車や春の夜半	朝賀ます美
雪原や三角屋根の家ひとつ	川野 佳代
初音聞く家事の合間の午後のこと	梅田千恵子
絮 <small>わた</small> になる蒲公英 <small>たんぽぽ</small> はやっと自由に	新井 駿也
ゆさゆさと枝垂桜のひろがりぬ	長岡 達江
日々好日大空へ向く紫木蓮	樽井みつ子
一步二歩三歩駆け出すランドセル	外山 千佳
春昼や退職仲間の長ばなし	元木 栄子
白髪をソファーに沈め春うらら	間戸谷恵子
新しき靴に靴ずれ花疲れ	元木 朱子
靴も鳴るランドセルの子春の空	寺崎 照代
夜桜やここから先は行き止まり	木下 野生

海南俳句

蓬摘む畦道幼き頃の儘	武知 陸子
夕闇も包み隠せぬ桜かな	川原 沃子
花の下記帳の筆のくたびれて	津川須美江
青き踏む秘めたるものを吐き出して	田中たち子
春めくや靴下よろけながら履く	谷口洋根子
廃校や桜ばかりが咲いている	山本 達平
閉校の老木ねぎらう木の芽風	平道はつ子
鼓音に土手の花鳥賑わしや	谷 律子
マンドリンに酔いしれ家路春嵐	北川 花
風光る水平線に定期便	森口 豊子
三椏の花満天の星座なり	佐野 政一
清水湧き谷に芽の出る音がする	廣瀬 克子
花辛夷見上ぐる奥に山神社	叶岡 陽二
風通る遍路も通る山桜	吉田 保則
山菜をいっぱい採ってネコ車	鍛冶崎郁夫
ほっとする宴のあとの桜かな	新居 利之
三月五日孫一歳や感謝して	岳山 祐弘
別れより三十三回目の桜	橋本 幸子

海部ひまわり俳句

春潮や白き尾を引く観光船	津田 一
桜満つ降りる人なき無人駅	西本 公明
朧影記録も記憶もない国務	榊原 礼子
たたら踏む春の踊りの立女形	南 歌子
傘ささぬ子らの行き交う春の雨	松田 嘉子
友来たるいとやわらかき春の雲	元木 美枝子
お大師と同行二人春の月	佐藤 美代子
走れ引け高く上がった孫の風	穴戸 道子
図書室の童話の中に春暮れて	岡 育代
亡き母のかたみとなりし紅椿	川野 照美
谷川の流れひかるや花山葵	福田 敦子
木蓮散る玉子の殻を剥ぐやうに	佐藤 葛子
サイバーで北窓開く仮想通貨	穴戸 保夫
暁闇に旅立つ無門夢ひらく	関山 無門

海部短歌会

ハイタッチグランドゴルフに征く妻を後方支援のわれ送り出し	池田 孝司
飯米の一反六畝はうかららで今年も田植よ空晴れわたる	北村 千代子
朝な夕な目に大業な庭の草どうにかせねばどうにもならず	西田 美代
老斑の手をしみじみとみては母恋う日の多くなりてゆくなり	榊原 節子
花ひとつほころぶ如き声のして帰宅の母に幼は蝶となる	風呂谷 幸子
猿どもは山より里の物好み老いの楽しみ奪い去るなり	溝内 和恵
青葉風我が面なでる心地よさ裏の畑で茶摘みをすれば	小笹 仁子

網代川柳四月句会より

軽くても母の財布は大蔵省	風呂谷 いずみ
おさいせん願い大きく供え小	福岡 純山
大声の会話が弾む老人会	石垣 小道
争そうた夜も枕が二つある	井上 可楽
あたり前それが出来ない古稀の足	太田 一洋
いつからか妻に脳天押さえられ	黒岩 一平

トピック

ツクシイバラ
筑紫茨



写真提供：岡田 齊 氏

筑紫茨はバラ科の植物で、海陽町にも自生しています。朝鮮半島から四国に分布していますが、無断で引き抜く人や環境の変化などによって自生している場所や数が減りました。

一見、野性味があつてたくましく見えますが、5月頃に濃淡様々なピンク色の花を咲かせる、かわいらしい野バラです。

群生地が有名な九州では準絶滅危惧種に、徳島県では絶滅危惧Ⅱ類に評価されている貴重な植物です。自生地を荒らしたり無断で採取をしたりせず、皆で温かく見守りながら、可憐な花を楽しみましょう。

6⁷³
月号

公民館報

海陽町教育委員会
2018年6月1日発行